

中 期 目 標

国立大学法人 京都工芸繊維大学

(前文) 大学の基本的な目標

1. 長期ビジョンー本学の目指すところー

本学は、その前身校の時代から、工芸学と繊維学にかかわる幅広い分野で、京都の伝統文化・産業と深いかかわりを持ちながら、常に世の中に新しい価値を生み出す「ものづくり」にかかわる実学を中心とした教育研究を行い、また、近年においては、自然環境との調和を意識しつつ、人を大切にする科学技術を目指す教育研究を行い、広く社会や産業界に貢献してきた。

21 世紀の知識基盤社会が進展する中、我が国では少子高齢化や人口減少、産業構造の転換等の諸課題を抱えており、同時に世界的には環境問題やエネルギー問題など地球存亡の課題に直面している。本学は、これらの諸課題を解決するための教育研究を行い、第2期中期目標期間までの成果を踏まえ、豊かな感性を涵養する国際的工科系大学を目指す。

本学は、これまでに果たしてきた役割を踏まえつつ、長い歴史の中で培った学問的蓄積の上で、「人間と自然の調和」、「感性と知性の融合」及び「高い倫理性に基づく技術」を目指す教育研究によって、困難な課題を解決する能力と高い倫理性・豊かな感性をもった国際的高度専門技術者を育成する。

2. 長期ビジョンの実現に向けて

20 世紀の過度の「分析主義」への反省から、21 世紀の科学技術には、「総合的視点」に基づく新しいパラダイムが求められている。

この新しいパラダイムは、「限りある自然と人間の共生」、「人間相互の共生」を追求し、また「持続的社会の構築」という課題に応えるためのものでなければならない。

このような状況を踏まえ、本学は、ものづくりの要である「知」、「美」、「技」を京都の地において探求する教育研究体制によって、それぞれの専門分野の水準を高め、同時に互いに刺激しあって総合的視野に立ち、人に優しい工学「ヒューマン・オリエンティッド・テクノロジー」の確立を目指す。

このため、以下の5つの目標の達成を目指し、長期ビジョンの実現に取り組む。

- ① 国際舞台でリーダーシップを持って活躍できる豊かな感性を備えた創造的技術者の育成
- ② 科学と芸術の融合による新しいサイエンスとテクノロジーの開拓
- ③ 特定分野において卓越した人材を惹き付け知識・技術を生み出す世界的研究教育拠点

の形成

- ④ 研究成果の社会実装化による新たな社会的・公共的・経済的価値の創造
- ⑤ 地域社会、産業界の要請に的確に対応できる教育研究活動の展開

3. 中期目標設定の基本的考え方と取組みのねらい

第3期中期目標期間を長期ビジョンの実現に向けた飛躍的發展期と捉え、本学の強みや特色、社会的な役割を踏まえ、この期間に重点的に取り組むべき事業を、教育、研究、管理運営などの側面に照らして、事項ごとに抽出し、それぞれの目標を第3期中期目標として設定する。

具体的な計画策定に当たり、特に留意した点は次のとおりである。

- ① グローバル化に対応した教育の高度化
- ② イノベーション創出のための研究活動の活性化
- ③ 地域活性化のための拠点機能の強化
- ④ 本学の強みや特色の強化を実現するための組織や制度の構造改革

国立大学法人京都工芸繊維大学の第3期中期目標・中期計画は、以下のとおりである。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- 第2期中期目標期間までに構築してきた学部・大学院一貫型の教育をさらに推進し、地域社会のグローバル化を牽引することのできる国際的高度専門技術者を育成するための体系的な教育課程を編成する。
- 課題解決能力や豊かな感性をもった国際的に活躍できる高度専門技術者を育成するために、実践的な方法による教育を充実させる。
- 教育課程や学習成果の可視化、厳格な成績評価、海外からの留学生の受入推進等の観点から、国際通用性の高い教務システムを構築する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- 本学の特色・強みの強化、グローバル化の推進に向けて、優秀な若手、外国人等の教員の重点配置を行う。

- 学生が主体的に学習できる環境を整備する。
- 教育の質を多様な手段で検証し、改善・向上させる。

(3) 学生への支援に関する目標

- 学生が主体的に学習できる機会を提供する。
- 学生目線に立った学習支援・生活支援を実施する。

(4) 入学者選抜に関する目標

- 多様な試験形態により、求める能力、適性を多面的かつ総合的に判断する入学者選抜を実施する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 本学の特色ある工学系専門分野の技術を融合し、イノベーションを創出するための研究を推進する。
- 産学官の連携を強化し、研究成果の社会実装化を推進する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- 重点戦略分野や融合領域分野の研究を組織的に推進する体制を整備する。
- 教員が効果的かつ効率的に研究できる環境を整備する。
- 若手研究者や女性研究者に対する支援を充実させ、研究活動を活性化させる。
- 研究業績を多面的に検証し、研究の質を向上させる。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- 小中高大連携の推進や社会人教育等により、地域社会の教育に貢献する。
- 本学が有する知的資源を地域産業界に還元し、地域産業の振興に貢献する。
- 地域の自治体・産業界と連携し、地域を志向した教育研究を全学的に推進する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- 「デザイン・建築」、「繊維・高分子」及び「グリーンイノベーション」の3つの分野において、アジア地域の中心となる教育研究拠点を形成し、これまでの実績をもとにさらに先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する。
- 海外の大学・企業等との連絡を強化するため、連携拠点を海外に整備する。
- 外国人留学生の受入、日本人学生の海外留学の双方向での国際交流を推進させる。
- 外国人留学生に対する支援や海外に留学する日本人学生に対する支援を充実させる。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- 学長のリーダーシップにより、本学の強みや特色を生かした教育研究・社会貢献等を重点的に実施できる体制を構築する。
- 人事・給与システムを弾力化し、多様な優れた人材を確保する。
- 能力を研鑽する多様な機会を提供し、教職員の能力を向上させる。
- 全学的な運営戦略に基づき、学内資源を有効に活用する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- 本学の強み、特色を最大限に強化するための教育研究組織に再構築する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- 本学の教育研究・社会貢献機能を強化するために、機動的に法人を運営できる事務組織に再構築する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- 安定的な財務基盤を確立し、教育研究を推進させるために、外部資金の獲得額を増加させる。

2 経費の抑制に関する目標

- 効率的な予算の執行を行い、経費の削減・抑制に努める。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- 大学が保有する資産（施設・設備・資金）の有効活用を推進する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- 大学の活動全般について、自己点検・評価、外部評価を充実させ、教育研究の質の向上及び業務運営の改善を図る。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- 教育研究活動の情報を積極的に発信し、大学の知名度を高める。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- 本学の教育研究・社会貢献機能を強化するために、快適なキャンパス環境を計画的に整備する。

2 安全管理に関する目標

- 全学的な安全管理体制を強化させるとともに、教職員及び学生の安全に対する意識の啓発に努める。

3 法令遵守等に関する目標

- 学内規則を含めた法令遵守や情報管理の徹底を図り、適正な大学運営を行う。
- 研究における不正行為の発生を防止するための管理体制を強化する。
- 研究費の不正使用の発生を防止するための管理体制を強化する。

別表1（学部、研究科等）

学部	工芸科学部
研究科	工芸科学研究科